

## 平成27年度第2回総合教育会議 会議録

日 時 平成27年7月22日（水）午後1時30分から午後4時45分まで  
場 所 与謝野町役場本庁舎3階 会議室2  
出席者 山添町長、岡田教育委員長、樋口委員、今西委員、酒井委員、塩見教育長  
小池教育次長、長島教育推進課長、岡田教育総務課長補佐  
浪江総務課長、小牧総務課主幹  
植田企画財政課長、小谷企画財政課係長  
小室商工観光課長、松本商工観光課主任

（浪江総務課長）

どうも皆さまお疲れさまでございます。ご案内の時間より少し早いですが、第2回の教育総合会議のご案内をいたしましたところ、委員の皆さまには大変お忙し中ご出席いただきましてありがとうございます。また梅雨が明けまして、毎日暑い日が続いております中ご出席いただき誠にありがとうございます。前回第1回の総合教育会議にて会を立ち上げていただきまして、意見交換を行っていただいたところでございます。本日は、第2回の総合教育会議ということで、お世話になりたいと考えております。なお、前回今西委員はご欠席でございまして、今回からご出席をいただきました。この会議は、総務課が事務局をさせていただいております。私、総務課長の浪江と小牧主幹とで対応させていただきます。

それでは、山添町長より開会のご挨拶をいただきます。

（山添町長）

皆さん本日は、第2回の総合教育会議ということで、非常に暑い中お集まりをいただきましてありがとうございます。この会議体の中で、前回確認をしたことと申しますのは、この総合教育会議でどのようなことをやっていくのかということの整理とそして我々の喫緊の課題としては今年度中に与謝野町の教育大綱を策定するという事について、意見交換を交わしたところでございます。本日から実質的にこの策定に向けて皆さん方と議論をしていくことになるわけですが、本日本日におきましては、そもそも教育とはどういうものなのかあるいは教育大綱とはどのようなものになるのかということも含めて、様々なことを皆さん方考えていらっしゃると思いますので、そうしたことをみんなで吐き出してみようということが大きな目的になるかと思っております。教育大綱を策定するという事については、非常に労力があることだと思っておりますし、私たちに課せられた責務でございます。簡単に策定することはできないということで、皆さん方と産みの苦しみを楽しんでまいりたいと思っております。それではどうぞよろしく願いいたします。

(浪江総務課長)

ありがとうございました。

それでは、まず資料の確認をしていただきたいと思います。

委員の皆様方にはあらかじめ届いていたかと存じますが、まず第2回総合教育会議の次第でございます。それから資料1の与謝野町教育大綱策定方針案でホチキス止めの3枚綴りでございます。それから資料2与謝野町教育大綱案ということで2枚物でお配りをさせていただいております。あと全国の他の市町の大綱を付けておりまして、北海道音更町、大阪府熊取町、鳥取県北栄町、長崎県長与町、栃木県壬生町、鹿児島県薩摩川内市、南さつま市の大綱をお付けしております。最後に夏休み期間中における小・中学生への作文提出依頼ということで付けさせていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。

今日の会議の流れですけれども、あらかじめ事務局サイドで教育委員会と町長と交えまして打合せをさせていただいております。今日の会議の流れにつきましては、大綱の案の取り纏めに入るということはまだ早い時期でございます。現状におけるいろいろな情報を委員の皆さまへご説明をして情報共有しながらその後意見交換をしていただくという流れで本日は考えております。前段の情報と言いますかいろんな角度からのご説明について、概ね三つの視点で考えております。一つは、確認いただきました資料の1と2でございますが、これは教育委員会事務局並びに教育長の方で作成をいただいた資料でございますが、まず、資料の1、2について教育委員会なり教育長からご説明をさせていただくというのが一つでございます。それから二つ目に町長の方から現在の町づくりの方向性なり人づくりについての思っておられることについて、委員の皆さんに町長からお話しをしていただくというのが二つ目でございます。それから三つ目にこの後2時半頃に企画財政課と商工観光課から説明に入らせていただく予定にしております。企画財政課からは、まち・ひと・しごと創生有識者会議というのがございまして、今全国どこの町もまち・ひと・しごと創生ということで取り組んでおりますけれども、その会議体の現状、議論の状況を報告していただくということと、商工観光課から産業振興会議の現状、議論の状況を報告していただくというこの2点を三つ目に考えておりまして、そのねらいとしますところは、やはり人づくりというところが大変重要な視点ということで議論がなされているところでございまして、そういった観点から教育に結びつくところが非常に深いというところがございまして、町長の思いもございまして、この二つの会議体の現状を報告させていただくという機会を三つ目に設けさせていただいたらどうかと思っております。その後意見交換をしていただいたらと思っております。前置きが長くなりましたがそのような方向で考えておりますのでよろしくお願いを申し上げます。

この後は、山添町長の進行でよろしくお願いをいたします。

(山添町長)

それでは、本日の議題としては、皆さまのお手元にありますように、両括弧1としては大綱の策定について、そして二つ目の両括弧については、その他で二つの議題を上げてお

りますが、両括弧1の大綱の策定につきましては、さきほど浪江課長からありましたように三つの視点の中で、この大綱をどのように考えるのかあるいは当町における教育の重要性というものについて、どのような機運になるのかといったことを情報提供という形で提案をさせていただきながら、皆さま方と議論を進行していきたいというふうに考えております。

まず、教育委員会の方からは、皆さま方に配付をしております資料1の与謝野町教育大綱策定方針案に基づきまして、これまでの合併以降の教育施策の背景等も含めながら、教育委員会の事務局でおおよそまとめていただいている資料について説明をしていただきたと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(岡田教育総務課長補佐)

それでは、私の方から資料1について、ご説明をさせていただきます。座らせていただきます。

資料1をご覧ください。

与謝野町教育大綱の策定方針案でございます。これは、教育委員会事務局案としてお示しさせていただきました。

そこに記載しておりますように、与謝野町教育大綱とは、与謝野町の教育、学術及び文化の目標や施策の根本となる方針を定めるものです。

教育大綱の基本ですが、教育基本法に規定する教育振興基本計画、その他計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる部分が大綱の基本と位置づけられることから、与謝野町では「第1次与謝野町総合計画」の基本目標を大綱の基本とすることが望ましいと考えています。

与謝野町総合計画では、まちの将来像として「水・緑・空 笑顔かがやくふれあいのまち」、まちづくりの基本理念として「環境と安全」「参画と協働」「成長と元気」「自立と連携」、まちづくりの基本目標としましては、教育文化の分野では、明日の人材を育てる教育文化のまちづくり、この中に6つの目標があります

- (1) 地域と共に育てる楽しい学校
- (2) 生涯にわたって成長する喜び
- (3) 遊びは心の栄養源
- (4) 地域から世界、世界から地域を考える
- (5) 誇らしいふるさとの文化を守り、育てる
- (6) 一人ひとりを大切に

以上6項目の基本目標に向かって、「学校教育の重点」「社会教育の重点」に定めた方針による施策を与謝野町教育大綱とするというのが資料1でございます。

次の2ページから6ページについては「平成27年度」の「学校教育の重点」「社会教育の重点」からの抜粋でございます。

この二つの重点につきましては、平成27年3月の教育委員会議に議案として提出した

ものであり、承認を既にいただいておりますので、説明は省略させていただきます。

ただ、3月の議案審議の中で「学校教育の重点」につきましては、誰に対するものなのか、また、文面が複雑で町民にとってはなかなか解りにくい等いくつかの御指摘を受けておりますので、来年度からの重点につきましては、改善する点もあろうかと思いますが、教育大綱の策定に当たっては、学校教育、社会教育の重点に示しました方針というものは外せないものと考えております。なお、この案には町長の権限に関する事項は含んでおりませんので、その部分を加えまして、与謝野町教育大綱とすると考えております。

資料2につきましては、教育長からご説明申し上げます。

(塩見教育長)

それでは失礼いたします。ただ今、岡田課長補佐がご説明いたしました前段につきましては、変わりなく私が思っておりますのは、先ほどありましたように総合計画が基本にあると考えます。これは25年度に策定されたもので、当時太田町政の時のもので、現在は山添町長ですので、これからこれを基本に考えながら、山添町長の教育方針を盛り込んでいくのがいいんであろうという考え方です。先ほど岡田課長補佐も申しましたように、一つひとつが重点に入りますと、細かいものになりすぎまして、なかなか町民の皆さまにわかりにくいところがございますので、大きなテーマとしましては、「明日の人材を育てる教育文化のまちづくり」としまして、1から6までの項目を設けていけばということで、一つ目は「学校教育の充実」を掲げて、こういった中で学校の再編問題もこれからの大きな課題だということや認定こども園等就学前の問題も大きく変えていかななくてはならない方針であるということもありますし、現在行っております加悦中学校の改築など老朽化の問題についても課題としてあろうかと思っております。両ガッコ3番の「教育内容の充実」の中で一つこだわりたいのは、いわゆる与謝野町ならではの教育ということで、一番目に挙げております「俳句づくり」とかあるいは、阿蘇海の浄化に関するような環境教育はどうか、そういったものを与謝野町ならではの思っております。

その次にありますのが、学力の問題と学級経営があります。またQ-U心理テストを実施しておりますのも与謝野町ならではの教育を進めている一つであると思っております。

もちろん大事な保幼・小・中の連携の問題等々、今まで与謝野町の教育でこだわり続けているものを全面に出していったらどうかなと考えておりますし、いじめの問題や食育の問題もそこに入っております。

さらに話題になっておりますのが両括弧4番のいわゆる心の教育の問題もですねぜひともしなければならない問題であるということと、貧困対策もそこに入っておろうと思っております。

おおきな4番目に生涯学習・生涯スポーツの問題がありますけれども、町長もおっしゃっておられるように社会教育の人づくり、リベラルアーツを中心とした項目も掲げておりますし、図書館の問題、それから生涯スポーツの点においても入れておるところで

ございます。

大きな6番につきましては、アベリスツイスとの交流事業、留学の問題についても触れておかなければならないと思いますし、グローバル人材の育成についても考えていく必要があるのかなあということと、世界を見るために故郷与謝野町をどう理解するかという問題はあわせて考えていかなければならない課題であるだろうと思っております。

それから地域文化の振興につきましても、いわゆる江山文庫や俳句とかそういったものを大事にした教育をぜひしていく必要があるだろうと思っております。

最後に人権につきましては、いろんな分野での基本になるものですので、大事にしていく必要があるだろうと思っております。やはり、冒頭で申しましたとおり山添町長の任期の時に策定し、3年から4年で見直していくということがありますので、そういったことも含めながら、町民の皆さんにどういったわかりやすい大綱を示していくかということで、案として作成しましたので、ご検討いただければと思っております。まだまだ加えていかなければならない点はあるのかなあと思っております。以上でございます。

(山添町長)

教育委員会の事務局そして教育長からこの与謝野町教育大綱策定方針案ということで、これまで町づくりの経過も踏まえてうえて、総花的にまとめていただいているというのが現状だというふうに思いますが、こうした大綱の策定の方法も一つであると思えますし、これから引き算をしていくやり方、足し算をしていくやり方など様々なやり方がありますが、ただ今の説明を受けた中で、皆さま方率直に感じられたことについて、ご意見を頂戴できたらと思えますが。

今西委員。

(今西委員)

一番最初に思ったのは、そもそも大綱っていうのはどういうのをイメージしておられるのかなっていうことが一つ大きくあります。っていうのは、資料をいただいて見せてもらったんですが、資料1も資料2も私は事務局が作成したものだと思っていましたよね。事務局の方が学校教育の重点、社会教育の重点を預かって作成したものと私はイメージをしていました。今日説明を聞いたら、教育委員会で作成されたっていうことですよ。教育委員会が案を出して、それについてどうですかっていうことで会議が進んでいるんですけども、総合教育会議でこの大綱を決めるっていうのは、教育委員会が提案するのではなく逆なんではないかと。事務局の方からこうではいかがですかと、それに対して私たち委員が教育委員会の立場からするってっていう流れになるんじゃないかなというイメージをしていました。つまり事務局の方で何かこうありたいとか、こうであつたらっていうようなものがあるのかどうかっていうことがお尋ねしたいです。

(山添町長)

ただ今の今西委員さんのご発言の中で、この資料1、2の両方の資料において、一つ目が教育委員会事務局が作成したもの、そして二つ目の案につきましては、教育長個人として作成されたものと言う中でのご質問だったと思いますが、先に前もって申し上げておきたいんですけども、まだまだ大綱を策定していく素地が出来上がっているという段階ではないというように私自身は考えております。と言いますのもこの大綱というのは法の中では私が策定をするということになっているということなんです。つまり町長をトップとした総合教育会議の中で決めていくということですので、今回はそのための議論をしていくためのきっかけを提供するという側面が非常に大きいというように思っておりますので、その点については、前置きとしてご理解をいただきたいと思っております。その中でこれまでの経過を踏まえたうえで二つの立場の中から提案をしていただいたということですので、これを受けて、事務局そして教育長それぞれ思われることがございましたらお答えをいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(今西委員)

資料1も資料2も学校教育の重点、社会教育の重点の抜粋になっていると思います。議会等でも言われているとおり、学校教育の重点などは、プロフェッショナルな立場からの意見が多いので、わかりにくい所がたくさんあると思います。現場の先生方はこれを見られてしっかり理解されますが、あくまで私のイメージですけれども、大綱はもう少しわかりやすくして簡素なものでメッセージ性があっていいものがないかと思っております。

(塩見教育長)

今西委員がおっしゃるとおりで、私が深く反省したことの一つがですね、私は学校現場におりましたので、これがずっと京都府教育委員会の指導の重点というのが学校教育のバイブルのようにして扱っておりましたので、そのことを参酌して与謝野町の教育という形をとっておりましたが、委員ご指摘のとおり、学校現場にはそれがマッチしてはいたんですが、誰に見ていただくのかと考えたときにやはり専門用語が多すぎわかりづらいと。

私も考えておりましたのは、与謝野町の教育の根拠というのはどこに行くのだろうといったときにやはり総合計画なんだろうと。これを基にして指導の重点にいかねばならないんです。ただ私が気にしておるのは、現在の総合計画策定時は、太田町政でありまして、29年度で終わるわけですが、そこに山添町政になっての教育の考え方が入っていくならば、そこを基に考えていくのがよいのでないという考え方の中で、作ったというよりもこれが拠りどころだったということなんです。委員おっしゃるようにもっとわかりやすく、ただコンパクトにするほど難しいものを作らなければなりませんけど。しかしながら住民の皆さんがわかりやすいものを策定するのが一番いいのではないかと思います。

(浪江総務課長)

今西委員のご指摘はそのとおりだと思っております、住民向けというのが前回の会議でも概ねそういうご意向の委員さんが多かったという思いもございます。このあと町長からも町づくりの方向性なり人づくりについての思いも説明していただくのとまち・ひと創生会議と産業振興会議からもこのあと説明員がまいりまして、いわゆる主に町がどういうことをしているのか、どういう意見が会議の中で出ているのかと人づくりが結びつくところの議論がなされているようですので、その話も出していただいて、それらも踏まえてどういう大綱の方針がいいのかというところを出し合っていただく段階にあるのかなというように思っておりますので、それらを取りまとめた素案が今あるわけではございません。イメージから入っていつていますので、なかなか今日事務局からお示しできる段階になっていませんが、今後そういったことを踏まえて一緒に検討させていただく必要があるのかなあ思っており、そういう思いでこの資料も出させていただきます。

(酒井委員)

この大綱は、町長が最終的に示されるものですが、これは教育長が案として、総合計画から抜粋されたものという理解でいます。私が確認をさせていただきたいのは、この計画を基にして、この大綱をつくるという説明があったと思いますが、私は、大綱という言葉からいきますとこれよりももっと大きな枠なのかなと思っていました。こっちは割りと総合計画、基本計画なので細かな内容で、それよりももう一つ大きな枠組みを示すのが大綱だと思っております、もちろん大綱も基本計画もさきほどの学校教育、社会教育の方針にしても整合性がとれてなければいけないと思いますが、そのあたりの位置付けがまだわからないまま会議に臨んでいるので、大綱の位置付けをもう一度正確に教えていただきたいのですが。

(小池教育次長)

今西委員さんや酒井委員さんが思っておられることがごもっともだと思っております。この教育大綱を策定するにあたりまして、本来でしたら町長が示すということなので、町長が案をここで示してご意見をいただくというのが基本的なのですが、色々なことをまとめる町長としましたら、教育行政の部分がわかりにくいということもございまして、色々なことを教育委員さんとディスカッションしたいということもございまして、現在教育を取り巻く関係で例えばこれから出てまいります産業振興会議ですとかそれからひと・まち・しごと創生会議あるいは有識者会議あたりでの話しの中ですべて教育というのが一つのキーワードになっているということで、その取り巻く状況について全部この場に出させていただきます、それで教育委員さんのご意見を聞かせていただいて、その中でこれから案的なものを作っていくと思っております。今日のところは、ご案内しましたとおり、教育委員会たたき台というより話す材料としてお示したんですが、現在私どもが思ってますのが、まずは総合計画が最上位計画であるということから基本的にはその多くの整合性を図っていくことが大事であろうと思っております。しかしながら総合計画の策定された時期、

また首長も替わられた中で、今の時期にあった事業にも濃淡が出てくる部分もあるのではないかと思います。そのような中で話しの材料としてお示ししたものと解釈をお願いします。

(山添町長)

今、酒井委員から大綱の位置付けと大綱と総合計画との整合性についてどうかのご指摘がございました。その点については、私自身はこの総合計画に縛られる必要はないと考えています。といいますのも、この総合計画が練られてきた背景であったり、それに基づいて政策を実行してきた部分については、少なからずどうやったとしてもこの総合計画からはみ出ることはいらない状況でございます。そうした中で教育次長が申しましたように、これから与謝野町としてどのような教育を目指すべきかということについては、どういうキーワードをとったとしても、少なくとも総合計画には関連が出てくるというそういう作りになっているものだと思っております。それに対してどのような濃淡をつけるか、グラデーションをつけていくのかということについては、ここで議論をしていく中で決めていければいいのかなあというふうに思っておりますし、またこの総合計画については、29年度に改正をしていくということで、そもそも総合計画自体をどうするのかという議論もある中で、私はこれまでの経過を尊重しなければならないと思いますが、その総合計画の一連の流れに縛られる必要はなくて、今回新しく与謝野町の教育大綱については、この与謝野町の教育に関する最上位の計画として、あるいは大綱として位置付けることも十分できるものだとお思っておりますので、できるだけこれまでの経過も尊重したうえで、かつそれに縛られない形で議論が展開できればいいんじゃないかと思っております。

(小池教育次長)

他の市町で既に教育大綱を定められた資料をお付けしておりますが、こんなスタイルもあるということで、委員さん方から忌憚のないご意見をいただいたらと思っております。今日はそういう場だと思っただけたらということでございます。

(山添町長)

もう一度整理をさせていただきたいのですが、今お手元にお配りしている教育大綱策定方針案というものは、あくまでも話しをしていく材料の一つとして教育委員会事務局そして教育長の方で提案いただいたというものでございまして、これをそっくりそのまま教育大綱にスライドしていくということはないということは確認をさせていただきたいと思っております。そのうえで、今西委員、酒井委員がおっしゃられたように、もっと簡素なわかりやすいもので大きな枠組みであるべきだというご提案については、私どももそのように解釈をしておりますので、今後の議論で深めていくということが重要であると思っております。

それと同時に今のたたき台としての一つの方法としてあるのは総花的に議論が展開されていると思っております。言い換えれば差し障りのないものだなと。一方で簡素なものにしてい

く段階において、そしてわかりやすいものにしていく段階においては、当然表現のブラッシュアップもある。そして、もっと集約した言葉にしていく中では、当たり障りのないものではなくて、少し尖ったものになってくるのではないかと思ったときに、その大きな方針を定める勇気がこの会議体にあるかということも非常に重要なことだと思っていますので、この意見の集約の仕方については、私たちそして事務局と双方の議論の中で、決定をしていきたいと思いますが、ただ一つの言葉あるいはわかりやすいものに集約していく段階において、そうした言質がきくという部分については、認識をしておかなければならない点だと私自身思っておりますので、これは共有しておきたいと思います。

(今西委員)

そもそもなぜ総合教育会議を行って大綱を作るって話が出てきたのかと言ったら、あまり言いたくないんですが、教育委員会に対する不信感というか形骸化って問題があったからです。だから町長部局と話し合おうという流れになってきているので、町長部局で考えていただくというのが筋かなというふうに思っています。今ちょっと思い出しましたが、今年の年明けに初めて町長さんと懇談させていただいたときに、最初に多様性に富んだ気質に期待したいということと、物づくりの地域であるというお話をされたことを思い出したんですが、例えば町長さんが総合計画に縛られずに考えていくというお話しでしたので、私はそういう視点を大綱に入れるというのも一つかなと思います。

(山添町長)

前段の教育委員会に対する批判そして教育委員会が形骸化していると言われていの中で、こうした総合教育会議が設置されてきたのではないかというご意見がありました。私自身は、どちらかというと政治がもう少し教育に介入するといいますか、共に共同作業をしていく必要があるのではないかという観点から出てきた教育行政の法律の一部改正だったのではないかと考えていまして、かつ教育委員会のお話を聞きますと、この与謝野町の教育委員会に限っては、一つの議題についても多くの時間をかけて議論をされてきたという経過がありますので、私自身が少なくとも不信感を持っているということはないと申し上げておきたいと思いました。そして後段の多様性であったり、物づくりに関しては、一定のご理解をいただきましたし、そして私の観点も含めながら教育大綱については示すことができれば非常にうれしいと思いますので、申し添えたいと思います。

(浪江総務課長)

事務局に対してのお話しもいただきましたが、経過としてこういった総合教育会議が設置されたということは、今おっしゃいましたような認識は、私もあるかなと思います。ただ現時点で町長部局の事務局を持たせていただいた総務課で、教育のプロでもない立場でその素案を示してほしいといわれましても、これはすごく難しい問題で、今の段階では正直いいましてできません。私が思いましたのは、この大綱案にもありますように、教育部

局と行政部局が連携して進めていくことが謳われていますので、教育サイドでお考えになっていくことと町づくりサイドで思っていることと一緒に作っていくのが本来の姿なのかなと思っていますので、ぜひ教育委員会事務局と私どもの事務局と一緒に出来上がっていけばいいのではないかなというような思いを持っておりますので、今の時点では、まだ知識等が不足している状況ですので、その点をご勘弁いただきたいというふうに思っております。もう少し議論が進んでいきませんかという思いと正直なところそのように思っております。

(山添町長)

それでは他にございませんか。

酒井委員。

(酒井委員)

今ご説明いただいて大体のこの位置付けであったり、これからどういうふうに進めていくかわかりましたので、前回と今回の今のところまでは、形式的なことを中心に話しをしていますが、町長の思い、それから事務局の思いとしては、内容についてこういうことは入れたらどうかということを教育委員会側から意見を上げさせていただいて、それを基にしてこれから事務局と町長とで案を作ってくださいという流れでよろしいですか。

(浪江総務課長)

私どもとしましては、まだどういう組み合わせでどういう比重でやっていくのいいのかまだ行き着いていないのが正直なところですので、議論と成り行きによって判断していくべきところかなというふうに思ったんですけども。

(酒井委員)

今はまだ中身の話しに入っていないですね。中身が重要ですから、いつまでもこうして形式の話ばかりしていても仕方がないので、中身の話しをしていかないといけないなと思っていて、そういった意見を上げる場として理解したらよろしいですね。

(長島教育推進課長)

その前に町長の思いをお聞きしてそれからでいかがでしょうか。

(山添町長)

今までの議論の中では、こういう方向性で考えられる部分もあるのではないかと、議論の話題として提供させていただいたという側面が非常に強い提案だったと思います。

そして、これから私が現在進めている町づくりの方向性だったり、その方向性の中でどのような教育との関連性が出てくるのかということについて、若干ご紹介をさせていただ

きたいと思いますので、あまり長くならない程度でお話しをさせていただきたいと思いません。

まず、そもそも教育って何のためにあるのかということについて、私の私見を述べておきたいと思いますが、この教育という言葉については、私は次の世代がより豊かにこの社会で生きていくためにどのような力を授けるべきなのかということを考えていくことが非常に大事なのではないかなあというように考えています。そうした観点にたって、私自身はこの総合教育会議の中でも発言をさせていただきたいなというように考えていますけれども、その内容につきましては、私自身もまだまだ考えが深まっているという状況ではございませんので、皆さんとともに意見交換をしていく中で見出していきたい、事前に答えがあるものではないという認識にたっています。その上で、現在の与謝野町の町づくりの方向性で非常の私どもが力を入れておりますのが、産業振興についてです。この産業振興においては、皆さんもご存じのとおり特に与謝野町においては、物づくりの産業の地域であると。織物業、そして農業を基軸とした経済的な発展によって地域が形づくられてきたというふうに思っております。しかしながら、非常に時代の流れとともに産業の状況というのが変わっていく中で、織物業においても農業においても非常に厳しい局面に立たされているということが顕著な状態にあると思っております。織物業においても農業においてもそれぞれの分野で丹後ちりめんであったり、農作物においても本当にひたむきな姿勢の中で労働をされ、そして物を作っておられるわけですが、それに対して付加価値を付ける力がなかったと。その中で販路開拓をしていくという能力については、非常に欠けていた。そうした能力の蓄積がこの地域にはなかなかなかったというのが全体的な産業の低迷を招いているのではないかとこのように思っております。そうした中で、この産業を軸にしながら町づくりを進めていくときに非常に重要な観点になりますのが、おそらく創造性であったり、クリエイティブという力だと思っております。そうした中で、与謝野戦略ブランド事業を進めているわけですが、これは既存の物づくりの基盤に創造性であったり、クリエイティブという力をエッセンスとして入れていくことによって、地域としての価値を高めていこうというものですけれども、今、産業振興の枠の中でこの取組みを進めているわけですが、しかしながら、この産業振興という軸だけでは、この取組みというものは、継続的なものになっていかないというように思っています。先ほど創造性とかクリエイティブというふうに申し上げましたが、これを育てていくためには当然教育という部分も重要な役割を担うというように思っています。現在その観点の中で、教養を高めていくという中で、リベラルアーツ推進事業というものをやっているわけですが、これは社会人の社会教育という枠の中で行っています。しかしながら、この社会人の中で創造性、クリエイティブというものを育てていくということについても、私自身はもっと学校教育であったり、あるいは就学前の子どもたちに対しての日々の接し方であったり、日々の講座など日々の時間の中で教えていくこと、あるいは気づいていただくような機会を提供していくことが必要なんじゃないかなあというように考えていまして、そうしたことを考えると産業を発展させていくためには、教育という観点が非常に重要になってくるというよ

うにこれまでの経過の中でも考えているところがございます。ただし、ここで誤解のないように申し上げておかないといけないのは、教育というものは産業を発展させるためだけにあるということでは当然なくてですね、その個人個人が教育を受けた一人ひとりが人生を豊かにしていくために必要な力を授けていくというふうに思っていますし、今、私は与謝野町という非常に小さい枠の中で話しをしているわけですが、今は国際化、そしてグローバル化といわれている中で、与謝野町の教育問題がいかに全世界的に波及できるのかということも当然考えていかなければならないので、そこは産業を発展させるための教育という観点だけで見ているというわけではないということは申し上げておきたいと思えます。

その中で、最近創造都市という言葉がよく聞かれるようになりました。これは、日本の国内であれば、金沢が創造都市という枠組みの中で世界的にも動きをされていますけれども、その創造都市という考え方が非常に実践的に展開されてきた町の一つとして、イタリアのボローニャという町がございます。ボローニャというのはイタリアの中部に位置する町ですが、いろんな職人的な技の蓄積をされてきた町で、そうした職人技が基盤となることによって、経済の発展を遂げてきたというように認識をしていただければ結構なんですけれども、このボローニャという町は、基本的には自分たちで大学であったり、研究所を作るといった様々な仕掛けをしていくことによって町を発展させてきたというような話しです。地域のコミュニティーが共有するような価値観、ルール、文化が産業の発展に大きく関わったり保衛役として機能していくことによって、自立的な産業集約型の町を形成してきた町だというようにいえると思えます。この中で、産業と教育の関連性があるなど思いましたシステムとしては、そうした職人の技を磨いた人たちが独立をするという際に、それを積極的に応援をしていこうという仕組みを作ってきた、そして、ただのれん分けをするだけではなくて、色々な技術を習得した場所から出るときには、その技術だけではなくて、プラスアルファの余韻を付けて個人としての開業をしていくというような社会的な仕組みを作ったことが非常にボローニャの発展に寄与してきたというように聞いています。

こうしたように世界的に事例を見ていきますと、産業と教育が非常に密接に関係をしていくことによって、社会が発展をしていく。人の人生が豊かになっていくという非常によいスパイラルを生み出してきている町があるというように考えたときに、こうした世界的な例を参考にしながら、与謝野町独自のものを作っていくきっかけが、もしかしたらこういった創造都市という概念の中に埋め込まれているのではないかなあと考えているところです。ただし、こうしたボローニャの例であったり、他の創造都市という枠組みの中で取組みを進めてきた町のスタイルをそのままここに転用するわけではないですけども、ただ一つ強調して申し上げておきたいこととしては、産業と教育というものが双方によりよい影響を与えていくことによって、発展的な社会そしてオープンな社会、町というものがもしかしたら作っていけるのではないかなあという視点の中で、現在私どもも内部での議論を進めているというところです。これは世界的な事例の一つでございますので、これから議論を進めていく中で、皆さま方にも視野の提供等もさせていただきたいと考えていま

すが、与謝野町という町は、現在産業と教育の関連性をいかに深めていくかという視点の中で、27年度においても町づくりを進めているということについては、認識をいただきたいということを申し上げておきたいということと、ただ単に産業を発展させるために教育があるという考え方ではないですし、一人ひとりが豊かに生きていくためには、教育というものがもっと与謝野町においても、積極的といいますか多角的といいますかこの町にあったといいますか、この後に展開されるべきかなあというように私自身は認識をしているということを申し上げておきたいと思います。

今回、私の話しの中で整理させていただきたい点としましては、何度も申し上げますけれども、産業と教育がよりよい関係を構築していくことによって、もっと魅力的な町づくりを進めることができるのではないかと、そしてそもそも教育というものにおいては、次の世代がより豊かにこの社会を形成し、生きていくという手助けができるものだと思いますので、この点においても、最後に申し上げておきたいと思います。

先ほど、今西委員からご紹介いただきました前回の皆さま方との懇親会をさせていただいたときに強調した多様性という言葉も非常に重要なポイントになるのではないかなあと考えています。これから生きていく子どもにおいては、これまで出会ったこともない人たちとも意見交換をしていく、そして一つの解決策を見つけていかなければならないというそういう世界になってきているということが現状ですし、そうしたときにこの与謝野町で育つ子どもたちにとっても、子どもの頃から18歳までこの地域を出るその18年間で多くの人たちの考え方、多くの人たちとの交流の中で多様性に触れて考え方の違いを学び、それを尊重していく中で、交流をしていく必要があるのではないかと考えておりますので、そうした多様性も含めて重要な観点なんじゃないかなと今は考えているというところですね。産業と教育の関連性そして教育というものはそもそも何を目的としてあるのかということと、これからの社会というものは、グローバル社会の中でこれまで触れ合ったことのないような人たちと触れ合いながら一つの解決策を見つけていくということも必要な能力としてあげることができるのではないかなということはこの場では、問題提起をいたしますか一つの話しの論点として申し上げました。

紆余曲折をしながらの話しとなりましたが、私が今思っていることを思っている順に話させていただいたということですので、後ほど考え方の補足の質問であったり、この点についてはどう思うという質問を投げいただければうれしく思いますので、よろしく願いいたします。

(岡田教育委員長)

ただ今、町長がおっしゃられた教育とは、次の世代が暮らしていけるための教育だということが町長の一番の思いかなあという感じがします。その豊かというのも、経済的だけではなく、心も豊かな教育ができたと思います。総合計画の中で、遊びは心の栄養源ということが38ページにありますけど、こういうのを与謝野町は、大きな柱としてあげてみたら私はすごくいいかなと思っています。創造性を磨くということは、子どものときに

いろんな経験をしたかによっても全然違ってくるかと思います。その経験というのはもちろん学力もですけれども、学力以外にいろんな遊びとかも大切な要素だと思います。与謝野町はこれだけ自然があるのだから、この自然を生かしてもっともっと経験ができるようにとの思いから、「遊びは心の栄養源」というフレーズを私は一番気に入ってしまって、町長がいわれましたように豊かに暮らしていくための教育というのを前面に出して、考えていくのもいいのではないかと思います。

(山添町長)

この会議の冒頭で申し上げましたが、この教育大綱においては、本当にゼロベースから作り上げていかなければならないもの、そして、今、出口を設定しながら議論をしているわけではないので、みんなで色々な質問であったり意見を出し合っていく中で、まとめていくというものなので、一つの方向性に向かって議論を集約させるという状況ではないので、感じていただいたことをそのままぶつけていただいて、いろんな角度から検証していきたいので、私の話しを受けて皆さんが思われることを自由にディスカッションしていただければと思いますが、その点でもう少し補足の意味で申しますが、今の遊びは心の栄養源という話しの中で、私が思いましたのは、最近子どもたちが過ごす場所において、どこが一番魅力的なのか魅力的じゃないのかという調査があったんですが、その調査の内容というのは、非常に私にとっては面白かったもので、子どもたちは大きく学校と通学路とそして自宅のこの三つの柱の中で時間を過ごすことが多いと。で現代の子どもにおいては、特に学校と家庭で過ごす時間が多くて、その中でも特に学校の自分たちのクラスで過ごす、そして自宅においては自分たちの部屋であったり、キッチンあるいはリビングそうした場所で時間を過ごすという傾向が非常に高いと、しかし一昔前の10年あるいは20年前であれば通学路で時間を過ごすということが非常に多かったと、つまり通学路の中で様々な地域の特性に触れて、子ども同士、同級生等と遊ぶことによって様々な楽しい体験をして、そして感性を磨いてきたというような背景があるんだけど、今は、安心安全とか至るところに地域の人たちが立っていて、遊ぶということを思いもしていないし、そして自分たちで通学路をはずれて遊ぶということもできないし、非常に子どもたちにとっては通学路っていう役割がせまくなってきているというか魅力的な空間ではなくなってきているというような調査結果だったんです。つまり、これまでの10年20年間の中で、通学路で育まれていた感性みたいなものがなかなか現代社会においては、育まれにくくなってきたと、一方でその手当というものをどうしているのかということなんですが、つまり子どもたちが感性を育てていく場所っていうのがどこなんだということが非常にわかりづらいというか、社会的にもなくなってきたという悲しい結果だったんですよね。なので、岡田委員長が遊びは心の栄養源ということを重要視したいとおっしゃる中には、子どもたちが育むべき感性みたいなものをどのように教育大綱の中で位置付けるのかという問題提起があったのではないかと思います。だから感性っていうキーワードは私自身もすごく重要だと思っています。

(岡田教育委員長)

特に子どもにとって、遊びの中から学ぶことはすごく多いだろうと思います。子どもたちだけで遊んでいる、今、夏休みの最中でも子どもの声がきこえるのかなあとあって、自転車で走る子どもを見る程度でワイワイがやがやっていうことは、私の地域だけではなく、あまりないのではと感じていて、遊びを通じて学ぶことはすごく重いのではとあって、この遊びは心の栄養源っていうことが引かかったんです。

(山添町長)

現在リベラルアーツ推進事業を行っていますが、その中で前回の先生が人工知能の先生だったんです。人工知能の話しをされる中で、いわゆる労働集約的な作業においては、これからロボットであったり、人工知能が人間の代わりをしていくんじゃないかと、そういう時代として流れていくんじゃないかという話がある中で、最後に何が残るのかという話しをして行ったときには、その人間同士のコミュニケーションであったりとか、感受性であったりとか、そういった数値に還元されないものがこれから教育の分野においても育てていくべきものなんではないかという指摘がありました。確かに感性とか感受性とか直感とかそういうものってどういうふうに育てていくことがいいのかということについては、私自身も正直うまくわからないし、だけでも多分そういう数値に還元できない部分がいかに教育分野の中で埋め込むことができるのかということが非常に重要な観点になるのではないかなと思いましたし、それが社会的な要求としてももしかしたら関わっているのではないかなという感じがします。

(今西委員)

外でワイワイがやがや遊ぶ子どもが少なくなってきましたね。外で目で見える形で言い合ったり、ケンカしたり、石を投げるようなケンカはしないかわりに、携帯電話等で子どもたちは会話してますよね。だから視覚的に見えない形で携帯電話等で会話をして、しゃべるのと同じようなスピードで子どもたちは使っていますね。

(樋口委員)

先ほど町長がおっしゃった中で私も同感だなんて思うのは、どれだけエッジが効いたものが出せるか、僕は「とげ」。この与謝野町がどういった「とげ」を出せるかというのが、資料としていただいた他の市町との違いを出せるかが私たちの使命であって、先ほどありましたように私たちが産みの苦しみを味わなければならないなという中で、例えば、与謝野町に子どもが通うことによって、単純にいうといい学校に入れるような地域であるようであれば魅力的な地域になりうるのではないだろうかと私は思うんです。例えば学力を上げるということは、常に学校の先生が普段努力されていることですから、難しいことであろうと思うんです。ただ日々の業務の中で追われている先生が本来教えるべきところが教

え切れていないところもあると感じていることもあって、このことは、専門家のお話しをまたゆっくり聞かせていただけたらと思います。昔ありましたよね百マス計算、漢字の書き取り。あれを必要な時期にどれだけするかによって、基礎的な演算能力が上がるというのはある程度実証されている中で、やれないんですよ。すごく究極の話しなんです。与謝野町のある学年のところにおいては、常に百マス計算であり、全校二桁の暗算能力というものをどんどん上げていく、例えば漢字の書き取りについても、ある意味、時代錯誤かと思われるくらいの量を書き続ける、そういったことの「とげ」っていうのは、僕は古い考え方もかもしれませんが、今の教育で一番欠けているところでないのかなと思ひまして、何かこの大綱の中で「とげ」として出せないのかなと、そういったことで、もちろん次世代に生きていく力をつけるということにも当てはまっていくことなんです。でも私は少し違う観点から、いかにこの与謝野町に住みたいかと若い世代に思わせるかということも大事なことであって、それは教育という観点から成し得るファクターの一つではあると思うんです。どうせだったら子育ては与謝野町で、帰ってくるなら与謝野町だよ、よそから私のようにやって来る人間も与謝野町ということの要素の一つがここに入れるだけのことのできたらなと思いますが、それを言葉にして、ここに書くというのは、一つ間違えればとんでもない誤解を生みますかね。

(山添町長)

樋口委員がおっしゃる中で、学力っていうのは当然すごく重要なことですし、この基礎的な学力をいかに身に付けてあげるかによって、少なくとも社会においては、ある程度人生が決まってくるというのが現実としてはあるので、学力へのアプローチははずせないところではないのかなと思ひていますし、住みたいという選ばれる町になるための要因として学力があるというのは当然そうだと思うんですよ。ただその先のいい学校に入れるためとかその目標値がどうなのかっていうのはいろんな議論があるのかなと。例えばいい学校とはどういう学校なのかとか、そういった議論はあるのですが、やはり学力っていう観点は非常に重要じゃないかということと、住みたい選ばれる町になるために教育が一つの役割を果たすということはそのとおりだと思います。

(樋口委員)

私も自問しているところで、町長もおっしゃいましたように、いい学校に行けるってそれはどういうことかなと、私自身もそのようなことを口にすると思いますが、意外と多くの保護者がそういったことを望んでいるっていうのはあると思うんです。それが今、子どもたちが伸び伸びと健やかに自分の力を付けて大きく育ててほしいという理想の教育と親御さんたちが望んでいる教育とのある意味ギャップでもあったりもするのを感じますので、このことを大綱に示すことは難しいと思いますが、でも何か基本的なところでそういったところに力点を置くことができないかなと思ひています。

(今西委員)

学ぶっていうことを一つのポイントにするっていうのははずせないことだと思います。その結果、いい会社に就職できるとかそうことではなくて、要するに子どものときに学ぶ姿勢と学ぶ環境を整えるのがポイントっていうことを押さえることが大切だと感じます。

(酒井委員)

どこの教育方針でも学力については、一番最初に書いてあるんですけども、当たり前すぎてさっと書いて終わるんですよ。樋口委員がおっしゃったのは、それを与謝野町の教育大綱のトップに据えるくらいの勇気があるかという意見だと思うんです。そこまですると、やっぱり学力だけなのかという批判を受ける心配があるということが多分おっしゃったんだと思います。先ほど町長がおっしゃったエッジの効いたっていうことも、はっきりとしている代わりにどうしてもそれだけなのかという印象を与えてしまって、その批判を受ける可能性がある。そこまではっきりした具体的な目標を掲げる勇気がこの会議体にあるのかということをおっしゃったと理解したんです。これは学力に関わらず何を掲げて一つの売りを作ると、じゃあ他はという印象を与えると思うので、ただ、それくらいはっきりしたものを大綱として作るかということをお話しいただいたと理解しています。私の希望として町長にお願いしたいのは、総合計画の言葉を借りていけば、明日の人材を育てる教育文化の町づくりの中の、明日の人材というは何ですかということを示していただきたい。例えば先ほどの町長のお話しの中では、創造性のある子どもであるとか、可能性のある子どもであるとかいう言葉があったんですけども、この明日の人材というのはどういうものなのかと、基本計画とかそれから学校教育の方針に書いてあることは、その後でこういう人を育てるために、じゃあこういう政策を執りますということとか、やはりこの大綱というのは、どういう人を育てたい、そこをはっきり示すことによって、じゃあそのためにこういうことをしますとかが多分出てくるだろうなあと思います。何をしますを話す前に多分そこがはっきりしたほうが話しが進みやすいといえますか、その中で、例えば創造性をもった子ども、可能性をもった子どもを育てるためであれば、創造性的前提となるために必要な知識を身に付ける学校教育の推進につなげるとか、このどういう人を育てたいかという部分をまず進めて行ったらいいかなと思います。

(塩見教育長)

今おっしゃったことは、どこの自治体もそうしているんです。私が申し上げているのは、学力だけして何もしません、いわゆる徳育も体育もしませんっていうことではないんです。やってるんですよ。私は、時々話しをするんですけども、皆さん方は今までこの時代まで生きてきて、何が重要だったか、何が今まで生きてきて、今これから生きていくために何が重要かということをおっしゃってほしいと思います。時々次長とかに問うんです。そしたら、やっぱりねコミュニケーションっていうんですよ。人との付き合いですね。人権尊重が大切で、認めるということ。そういう考え方もあるよねってような教育を

していかなければ、創造性とかは育っていかないんです。私も創造性は大事だと思ってします。この前も次長と会話したんですが、義務教育は何をすべきか、私はずっとその命題を問うてきているわけです。こんな人間になりたいよ、こんな夢を持っている、しかし、その夢をかなえている人が全国に何人おるんだろうと、そのためには、やはり義務教育では、少なくともすべてのことを知っておいて、順応していく力、こういかなくてもこうもいけるというように順応していく基礎的な力を付けておくのが、私は義務教育のすべき基本的な姿だと、それから高等教育さらにとくなっていくのだらうと、その根幹にあるのは、人と仲良く付き合っていく、それが通学路での遊びであったり、そうすることがないと人を理解できないと思います。私はずっとそのことを問うていて、以前校長をしていた時にも、たまに来客者にも尋ねてたんです。そうすると学力が不必要だっていう人は誰もいなかったですね。体力が要らないなんていう人もいないです。一番大事だといわれたのは人間性ですか、結局人と結びついていかないとその心は養っていかないと思います。

そのような中で、教育大綱の中でこんな教育していきたいなあというのが出せれたら本当にいいなあと思います。樋口委員がおっしゃったのは、教育特区のようなものを持たないとなかなか難しいと思います。教育特区は、岐阜市がそうだと思いますが、また、教育委員さんと視察に思っていますのが、枚方市でこれは英語の特区になっていますけれども、これは、グローバル人材の育成という特色は出せるけれども、それでいいのかということもあります。

(山添町長)

視点としては、どういう人材をこの与謝野町で育てていくべきなのかということをはっきりさせたほうが、大綱にも適用させやすいということですね。その中で知・徳・体バランスのよい加悦谷高等学校のようにそういう文言になってくるとは思います、その中で、特に欠けている要素としては、コミュニケーション力とか人間性とかそういった部分になるんじゃないかということですよ。

(塩見教育長)

知・徳・体をバランスよくっていうことは、誰も否定しません。学校で学力を付けない教育なんてありえないんですよ。ただどこをやるやというところで、明日の与謝野町の人材育成になるんだということが出せれば、私はいいかなと。このことが出たから学力の向上へ目指しませんとかそういうことではないと思います。だから知・徳・体のバランスのよい人材を作っていかなければ、生涯社会人として生きていくときに、課題をいっぱい残すのではないかと考えていますので、特にこういった点は重点に置いていくというのは、学校教育の場合あるのかなあと思います。

(休憩)

(説明のため、企画財政課並びに商工観光課職員入室)

(山添町長)

それでは、休憩を閉じて議論を再開したいと思います。前段に申し上げていましたとおり、現在与謝野町のまち・ひと・仕事創生有識者会議そして産業振興会議において、それぞれ教育というものが一つのキーワードとして挙がっている状況でございますので、そうした町の現状を把握していただくことを目的として、企画財政課そして商工観光課からそれぞれの内容について、現況の報告を受けたいと思います。それでは、企画財政課からお願いします。

(植田企画財政課長)

企画財政課長の植田でございます。よろしくお願いします。

それでは、企画財政課からは、まち・ひと・しごと地方創生の関係を説明させていただきたいと思います。

前触れだけ私から少し話しをさせていただきます。合併以来10年経とうとしておりますが、合併時の人口が2万5千人を超えておりまして、今年の3月時点では、2万3千100人余りということで、既に2千6百人くらい人口が減ってきております。今後さらに減っていくという推計が出ておりまして、5年ごとに国勢調査がされておりまして、今年が国勢調査の年となっております。今年は今の状態でいきますと2万いくらかということは大丈夫であろうと思っておりますが、今から10年後となりますと2万人を割るのではなかろうかというような人口になってまいります。人口が急減していく中で、その構成比も大きく変わってまいりまして、超高齢化社会というふうな感じになってまいります。そのような中で、今の経済とか社会を動かしていけるこのシステムが維持していけるかどうかというのが非常に危惧されているということでございます。

そのような中で、現在、総合戦略を作っていこうとしております。その中で、ポイントとしては、人口が減少していく中でも、政治とか文化とかシステムが維持できるような方策をみつけていくという考え方にたって、戦略を作っていく必要があるというふうに思っております。この後は、少し詳しいことを小谷係長から説明させますので、よろしくお願いします。

(小谷企画財政課係長)

企画財政課の小谷でございます。よろしくお願いします。ただ今課長が申し上げましたとおり、地方創生といわれております取組みの一つでございます。今、与謝野町で何をやっているかといいますと、人口ビジョンというものとそれに対する総合戦略というものを作ろうとしている最中でございます。資料をおめくりいただいて、実は今後の人口が一体どんなふうになっていくのだろうかという推計をしておりまして、これが1ページと2ページになります。1ページ目がいろいろな条件を書きまして、それぞれの条件に対して人口がどのように推移していくのだろうかというグラフが2ページ目になります。ある程

度京都府の推計に合わせてやっていますが、ここでいわんとすることは、このままいくとどんどん下がっていく一方で間違いないということです。避けられないということで、いろいろな手立てとして、出生率を上げるだとか、転出を減らして転入を増やすことによって、ある程度人口の減少を抑制することはできる形にはなるんですが、グラフを見ていただいたとおり、ちょうど真ん中あたりに将来50年後くらいには横ばいになるようなグラフがありますが、そこにもっていきこうというのが、長期的な方針であるということです。とはいうものの、上の条件でいいます、長期推計の2の1だとか2の2、2の3とかこういった条件を満たしたときにやっとならば横ばいになるというものなんですが、例えば出生率を2.3まで上げるとどうなるかとか、ほんとにできるのかという課題もあったり、右側の社会移動に関する条件は、毎年150人くらい転出が多いのですが、少なくとも転入引く転出を0にするということが最低条件でして、あともう少し逆に転入を多いような状態にしてやっとならば横ばいになるという推計になってます。すごくハードルが高いなあとこういう予測があるということをございます。予測としては、だいたいイメージできるんですけども、実際に総合戦略としてどういったこと取り組んでいこうかと議論をしている最中のございまして、おめくりいただきまして、4ページ目にどういった体制で現在策定をしているかということなんですけれども、左側にまち・ひと・しごと創生有識者会議、右側が創生本部ということで、有識者会議の方は民間委員さんで岡田委員長さんにお世話になっておるんですけども、有識者会議の方で総合戦略の素案を作ることによって作業していただいております、右側の創生本部というのは町長をはじめ各課長の皆さんで組織をしているんですが、ここは車の両輪のようにしながら総合戦略を立てていっているという状況でして、5ページ目に2月以降のこれまでの会議の経過を書いているということです。やっとならばこの前、おおよその方向性がちょっと見えてきたということで、先ほど町長からもありましたように、教育だとか人づくりというのは非常に大きな柱になってくるだろうという予測をしています。おめくりいただいた6ページから7ページの意見の整理1番と意見の整理2番ということで、これは前回の有識者会議において、一定このような感じでどうでしょうかということでもとめをされたものです。1番と2番は班が二つに分かれていますので、1班と2班の整理だというふうに見ていただいたらいいと思いますが、グループの1番は、教育に特化された集約をされておりまして、すごく具体的に落とし込まれておりますが、結局、地域の人たちが地域の人たち同士で自分たちの町を担う人を育てていこうという考え方ということにまとめられています。与謝野町には大学がありませんので、いわゆる市民大学、町民大学のような形で将来を担う人を育てて地域を守っていきこうという考え方が書いてあるということです。それからグループ2は、7ページなんですけど、こちらでも示し合わせたわけではないんですが、教育・人づくりとまとめられたのと、プラス起こす方の起業と雇用の創出の2段ということで、仕事がなければ人も集まらないということで、仕事ということになっています。それから3番目にいわれていたんですが、与謝野町単独でできることってもう限界があるんだろうということで、丹後はひとつということになっているんですが、このグループ2の方は、個別具体というよりは教育のところを

広く見ておられて、大人自身を教育することも大事だろうと、よくいわれているのは、もう帰ってこなくていいぞっていうようなことをいうのではなくて、親自身が与謝野町はとってもいい所だからここに帰ってきなさいといってもらう会議もいるだろうというお話が何回となく出ておりました。子どもの小さいときから地域で教える教育だとかルールだとかきちんとしていくべきだというようなことからやっとなんか子どもは育てていって、仮に一旦子どもが外に出ていっても将来必ず与謝野町へ帰ってくるんだという意識づけが大事だというお話は多く出ておりました。

それから高齢化率がこれからどんどん高くなっていくんですが、高齢者の方も町の一員として、町づくりに活躍していただくということで、シニアクラスだとかグランドグラスというような呼び方にして、ここでも先生になっていただく方法です。高齢者自身で生徒になっていただく場合もありましょうし、こういった形で町民みんなが先生になったり生徒になることで、人を作っていくましようということが大きな柱です。最後のページの8ページですが、これまで何回と有識者会議をお世話になりまして、色々なキーワードが出てきておまして、これは未定稿なのですが、私の感覚的なところも入っておりますが、ちょっと読み上げますと、人口減少、少子高齢化は避けることができないのは確実であり、先ほど申し上げましたとおりでして、次なんですけれども、人口を増やすためには、出生を増やすか転出を抑えて転入を増やすしか方法がないのですが、申し上げましたとおり人口減少はもう避けられないということですので、人口が減少することも前提とした町づくりが必要だろうという考え方です。人口問題もさることながら、ここに住む老若男女がいきいきと暮らすことが町づくりの基本だろうということ、それから、与謝野町が良いだとか、与謝野町でなければとか、ある特定の分野に特化した町づくりがすごくいいのではないというご意見も入っております、どこでもいいんじゃないかと、与謝野町じゃなきゃだめなんだというような何か特化したものが必要なんだということです。与謝野町に行けば何かあるのではと思わせるような観光だとか仕事起こしだとかいうこともいわれておりました。ということでこの繰り返しになりますが、取組みの柱は教育と人づくりというテーマと起こす業の起業と雇用創出の二本柱になるんだろうと思っています。みんな教師でみんな生徒というのは先ほどの一般の発表の部分です。それから人が集まり与謝野の様々な問題を解決していくんだという考え方、それから与謝野へ来ればこんなことが学ばれて、結果として起こす業の方へ繋がるんだという仕掛けがあるんだということです。最後は、座長の杉岡先生がおっしゃったことなんですけれども、学校教育との役割分担をある程度整理する必要があるのではないですかとのことがありました。それからせっかく育てた人材を起業等の仕事に繋げる仕掛けがあるだろうということで最後に書いているのは、教育現場と産業を繋げる人材がいるのではないですかとの指摘をいただいているということです。これが、前回までの有識者会議の主だったお話しの内容です。簡単な説明になりましたが、こういった会議を行っている状況です。以上です。

(山添町長)

ありがとうございました。ただ今の報告について、何かご質問があればと思いますが、いかがでしょうか。

(質問なし。)

(山添町長)

ないようですので、次に商工観光課から産業振興会議の動きについて、報告を受けたのち、一括して質問があればお受けすることにしたいと思います。

(小室商工観光課長)

皆さんこんにちは。今日は、この会議に初めて出席させていただきまして、若干緊張しておりますが、よろしくお願いいたします。

今日は、私、商工観光課長の小室と与謝野ブランド戦略事業の担当でございます松本主任ともども寄せていただきました。どうかよろしくお願いいたします。

まず、私の方からは、今日までの産業振興に係りますその経過を簡単に概要説明をさせていただきますと思います。太田前町長時代にご承知のとおり、中小企業振興基本条例というものを制定しております。これは理念条例ということで、地域内の様々な宝、また組織といったものを循環させていこうというそういったマインドを作っていくための状態ということで、それを与謝野町産業振興会議の第一期の委員により、手作りで条例化を進めてきたという経過がございます。その動きの中で、産業振興会議という会議体として、第二期としまして、産業振興に関する提言書というものを平成25年の12月17日に太田前町長に提案をされたということでございます。その提言書としましては、産業振興を進めるうえで、きちんとコンセプトを作り上げながら前進をしてほしいというふうな類いの提言でございまして、それをもって、太田町政から山添町政にバトンタッチをされたというような経過がございます。現在、第三期の与謝野町産業振興会議という会議が今年の8月から発足をし、そして今日に至っておるということでございます。その会議体のメンバー構成は、非常に若い世代の活躍をこれからしていただきたい方々の集合体、それに金融機関、商工会そういった分野における有識者にもご参加をいただき、今後の産業の将来像をどのようにしていくかといったことを喧々諤々議論を交わしているということでございます。そういった動きの中で、今日お配りしている資料は、A4横判の図案化をしました資料とリアル開発会議という日経BP社が作成された冊子がございます。特にこの紙面の48ページをご覧くださいと思いますが、この48ページからはデザインマネジメントということで、昨日も参画をされましたクリエイティブディレクターの田子学氏と町長と東京で懇談をしていただいたという経過がございますが、本年5月に与謝野町として一緒に組んでいただきたい人物として、この田子学氏にお力をいただいたということをご報告させていただきます。元に戻らせていただきますが、このA4横判の資料につきましては、与謝野ブランド戦略マネジメントというこ

とで、それを体系図として整理をさせていただいた資料となっております。ここには、与謝野ブランド戦略を策定する中で、現在、町長が与謝野町内での町政懇談会でもって、この資料についても説明をさせていただいておるところでございますが、この体系図としまして、まず行政だけで産業振興を進めるということがやはり無理だという概念があり、やはり産業振興会議とともに行政と歩調を合わせながらやっていくという経過もあったということでございます。しかしそこには、やはりデザイン的に非常に少ないのではないかということで、山添町長の方がクリエイティブディレクターとして田子学氏を招へいをし、その内発的な部分もきっちりと整えていかなければならないということで、考えてきたというふうな組織構成でございます。一番下の方でございます、その与謝野ブランド戦略の位置付けの中で、町長が思い描くものづくり産業の強化、そして真ん中にごきますエリアの構築、これがこの場所としましては、この阿蘇ベイエリアを中心に産業構造を光らせていくというふうな考え方を持っておるということでございます、現在合わせてタウンプロモーションという映像を収録し、特設サイトで放映をさせていただいているという経過がございます。与謝野町としましては、産業が落ち込んでいるという経過がございます。先ほど、地域創生の動きの中で、まち・ひと・しごと創生本部会議でも出ている内容になっておりますが、単に産業を強くしていくことを考えましたときに、従来からよく出ております声としましては、企業を誘致すればいいとか、隣の町から人に来ていただいたらいいとか、そういった言葉が多くございました。そういった考え方ではなく、やはりいよいよ地域の方々が、内発的に将来を見据えながら展開をしていかなければいけない、そういった考え方を気付かされた、それが、平成26年度の事業展開だったんじゃないかなと思っております。今回、私どもの町にありますのが、産業の根幹を見つめ直すべきときにきているのではないかということで、それを若い方々に、また、起業家の方々にしっかりと植え付けていくそのときがきたんではないかということをおどもは感じているところでございます。国の方では、創業をしなさいとか、いろんな企業と企業との掛け合わせをしていきなさいとかいうふうな言葉がございますが、これにつきましては、やはり後側をきっちりと見据えないと、若い方々がリスクを背負って、金融リスクを背負いながら将来の産業にチャレンジするということは、おそらく無理なのではないだろうかということでございます、現在私どもの方で資料めいたものを作っておりますのが、与謝野町の産業振興の根幹になります町のGDPという部分を最近議会の方でも議論をしているところでございます。これは、ご承知のとおり国内のGDPの中で、市町村内総生産という数字が各自治体ございます。その動きとしましては、与謝野町では、500億をわずかに超す数字が現在示されております。お隣の京丹後市が1700億という数字が市町村内総生産となっており、宮津市におきましては、650億という構成比となっております。伊根町については、非常に厳しい状態だというその背景を考えましたときに、どこの経済を伸ばしていくべきかというふうなことを私どもの方が勉強をさせていただいております。国勢調査から基づきますそのGDPの構成比の中で、修正特化係数というものがございまして、そこから読み取る部分といたしまして、町長が伸ばしていきたい産業構造は、ものづくり

というふうなキーワードがございます。この地域の歴史背景を考えましたときに、やはりものづくりで前に進んできた地域経済であったということは、今回、この修正特化係数の数字の指標でもって、製造業が非常にこの町にとっても強みがあるということが数字上で出ているということでございます。それをきっちり輝かせていく陰には、先ほど小谷係長が申しましたように、後継者を作っていかななくてはいけない、また、そういった動きにおいては、時間をかけても、民間の方々にきっちりとそのマインドをコントロールしながら、前進させていかなくちやいけないということに、現在、私どもの方は、取りかかっているという状況でございます。

最近、与謝野町の経済人の方は、こういった今の国のムード、また、地域のムードにつきまして、若い方々が何かやらなくちやいけないというそういった感覚を常に言葉として、私どもの方に出されています。これは、時代背景として、地方創生という言葉が相まって、そういったムード感が出ておるのではないかもと思いましたが、町のスタイルとして、与謝野ブランド戦略という位置付けをその若い方々が非常に期待をもって、一緒に事業展開をしていきたいというムードがでているのではないかなというふうなことを、最近常々感じているところでございます。そういった動きの中で、今日も金融機関主催の若手の企業家が私の方へ講演をしてほしいということもあったり、いろんな各界がどんと町の動きを単に他人事にやるのではなくて、自分のためにやっているというムード感をもたらさせていただいているというようなことは、やはり今、この町が、行っていく与謝野ブランド戦略が徐々に見えてきたのではないかなというふうなことを常に感じているということでございます。最近出ておりますのに、与謝野町産業振興会議の位置付けの中でも、やはり人だということが言葉として民間の方々から声として出ているということで、先ほどのまち・ひと・しごと有識者会議にも私も傍聴で参画をさせていただいておりますが、やはりそこには、人だったということ自らも体感させていただいたというところでございまして、それに質感を掛け合わせていって、与謝野町のデザインをマネジメントするその方向性をいよいよ見つけ出すことが必要なのではないかなということでございます。最近、与謝野町におきましては、本年3月に国の方に、創業支援計画書を提出させていただき、この6月に認定を受けました。いよいよその企業が今までの業種で歩いていくのではなく、新たな産業を模索するためには、先ほどのGDPの内容をきっちり議論していただく中で、新たな産業構造を外の企業とともにやっていくようなムードが今、起こっているのではないかなというふうに感じているところでございます。そういった動きにおいて、この産業という括りにおいて、やはり教育という部分が非常に重要なロジックになってくるということを昨年来気付かされたということで、そういった部分において、今回のまち・ひと・しごとの部分とそして与謝野町産業振興会議の将来においては、やはり子どもたちにそういった部分を理解させる、そういったことが、一生懸命我々が努めなければならない状態なのかなということを感じているところでございます。今日は、こういった会議体の状態なのかなということが非常にわかりにくかったので、資料につきましては、お配りさせていただいた内容程度しか準備をさせていただいておりませんが、現在、海の京

都というそういった動きがございます。この海の京都という部分についても、最近一つだけ補足的なことをお伝えさせていただくんですが、今日まで、地域づくりの展開としまして、よく私どもの方が、その地域に入って、皆さんとともに一緒にやってきたというふうな経過がございます。最近、フェイスブック等々で拝見させていただきますと、特にちりめん街道の方々がプランターづくりをされたり、そして一緒になってグループ企画を作っ  
ていかれたり、そういったことから、次の展開が生まれてくるのではないかということで、最近こそ私どもの方は、地域に入れども、先頭を切って作業展開をやっておるということは、まったくないということで、それを我々はそばから支えていくという部分について、三年来触れずにやってきた成果がいよいよ生まれつつあるのかなということでございまして、これは非常に産業の内発的な発展といえ、時間がかかることではありますが、それをブレずに展開をしていくというそういった部分については、一つのちりめん街道がいい事例になっているのではないかというふうに感じておりましたので、補足としてご紹介させていただきます。非常に簡単な説明になりますが、あとは意見交換ということで、よろしくお願ひ申し上げます。

(山添町長)

皆さん、何かご質問ございますでしょうか。

今西委員。

(今西委員)

質問というよりもお願ひなんです、今日、私が総合教育会議で大綱について説明することのできた資料がこの資料1、資料2それから他の町の大綱ですね、それからこういった方々が参加されて新しい話しをしていただけるのは興味もありますし、有りがたいのですが、いきなり今日聞かせていただくのではなく、事前に資料を用意してほしいと思います。そしたら前の晩に目を通しておければ、もう少し違うことがいえるのではないかなと思います。

今いきなり資料を渡されたのでは、出たところ勝負みたいになっちゃうので、なんとなくこの会議全体も右に左に迷走をしながら進んでいくような気がしますし、この会議でどう  
いうふうにして、何をたたき台にしてどんなことをするかっていうことをもうちょっと考えていかないと年度内には収まらないんじゃないかなっていう気がしています。

(山添町長)

会議の進行については、丁寧にさせていただきたいと思っております。また、後段にお  
っしゃられたことなんですけれども、私たちで作っていくんですね大綱は。他人に任せて作っていくものではないし、私たち一人ひとりの思いを込めて作っていくという当事者意識だけは持っていただきたいと思ひますので、特に教育委員の皆さんにはお願ひをして  
いきたいと思ひます。事務局だけが作るわけでもなし、私一人で作るものでもない、そ

うした責任のある立場だということは改めて強調させていただきたいと思いますし、そのために私たちの方でできる限りの情報の提供をさせていただきたいという思いがありましたので、当然紆余曲折をしながら、共に考えながら、進んでいくスタイルをとっているということでございますので、会議の進め方はこうだということなので、ご理解をいただきたいと思います。

(今西委員)

前もって資料の提供をお願いします。

(浪江総務課長)

町長も申し上げましたが、我々も試行錯誤できておりまして、前もってお示しできればよかったです、反省をしております。こういった設定にすることを決めたのが最近でしたものですから、無理をいいましたのも事実でして、申し訳ございませんでした。

(山添町長)

教育委員会だけが、あるいは教育委員会事務局だけが教育について語っているという町の状況ではなくて、まち・ひと・しごと創生有識者会議においても、教育というものが重要視されつつある、そして産業振興会議でも本来であれば産業振興をほぼ考えておけばよかったような会議体においても、教育ということが非常に重要である、そして、人材育成が非常に重要であるという論点が提出をされつつあるという状況をご理解をいただきたいと思ひまして、今回二つの部署から説明をさせていただいたところでございます。

本当に教育というものは、学校教育だけではないし、社会教育だけではないし、その背景には、様々な町の要素が深く関連しているのではないかと思いますので、そうした周辺要素も、私たち教育の大綱を示す大きな責任を持っているわけですから、補完的にそして相関的に考えていく必要があるんじゃないかという私の思いの中からご説明をさせていただいたところなんです。確かにそれが教育という部分に直結をしないケースも当然あるかと思いますが、ただ直結する可能性があるというものにおいては、私たちは少なくとも現状認識をしておくのがいいのではないかと思いますので、こういう席を用意させていただきました。

(酒井委員)

何点か教えていただきたいことがございます。企画財政課長にお聞きいたしますが、「意見の整理」の(2)番に、子どもの小中学生の欄が三つ紹介されています。この三つについて、もう少し詳しくどういう議論があつて、これはどういうものなのかということをお教えいただけたらありがたいと思います。それからもう一つは、ものづくり戦略で、町内でもものづくりを進めるということですが、今のお話しの中では、どちらかというところからそういった人をきていただくというよりは町の中で育てていくという話しかなっ

て思っていますが、そうするとその部分が今の教育の部分に繋がると思います。具体的に例えば学校教育でものづくりについて何か触れる機会とかそこまでのイメージでおっしゃっていることなのか、そのあたりがこの大綱を作っていくうえでの関係してくる部分だと思いますので、もう少しお聞きしたいと思います。

(山添町長)

2点の視点でご質問をいただきました。1点目は企画財政課、2点目は商工観光課からお答えしたいと思います。

(小谷企画財政課係長)

資料の7ページです。親、大人とか子ども、小学生中学生、シニアと三つに分かれている部分のさらに小学生中学生の三つに分けられた部分は整理上分けられたんですけども、最初の広義のエリート教育っていうのは、子どもたちにいろんな教育をするときに例えばでおっしゃっていたのは、与謝野で教育をすれば塾だとか何か特別な機関に行かなくても、素晴らしいエリート教育ができるんだというような尖がった教育をしたらどうですかというようなことを言われていたのを覚えているんです。それが学力だとか産業の技術の分野であったりということで学力と技術が含まれているんです。いわゆる何か教育の中でも与謝野町らしい特化した尖がったものを進めたらどうですかということでもまとめられたのが一つ目です。それから二番目のリベラルアーツだとか論理、公民ということなんですが、いわゆる小さい子どものときから、教養だとか倫理だとか公民の教育をきちんとすべきだというようなご意見がありまして、このように分けられたということです。

(酒井委員)

一点目に仰ったのは学校でという意味でしょうか、学校で教育をするというよりは、行政がするんですか。

(小谷企画財政課係長)

どちらとも意見は出ていませんでした。

(酒井委員)

二点目も学校とかいうわけではなくですか。

(小谷企画財政課係長)

地域で地域の人を育てるという意見もありましたので、学校外の話もありました。これは全部に共通することだと思うんですけども。そういった意見がございました。

学校に限らず地域でというふうなことだとか、例えば公民館をうまく活用、開放してやる方法もあるのではないかというような意見もありました。それからアイデンティティー

の醸成とは地域郷土愛といいますか、そういったものを子どもの頃からきちんと教えていくべきだろうということで、意見の集約として三つに整理をされたということです。

(小室商工観光課長)

それでは私の方からご説明をいたしますが、これは個人的な視点になりますが、産業振興会議での教育との議論を深くやってきた経過はまだございませんので、それは私の浅はかな言葉だしがあるかも知れませんが、今回与謝野町が産業という括りでいえば、非常に堅い括りになってくると思うんです。仕事をするっていうのは非常につらい部分がありまして、その部分をきっちりと子どもたちに理解をしていただくっていうのは、最近での学校教育で職場体験というのがあります。私の娘も大きいので、最近こそあまりわからないのですが、会話する機会があって、例えばものづくりという表面を考えたときに、職場体験で子どもたちは楽な方向へよく行くというところがあって、例えばスーパーでのレジ打ちをすればいいとか、クアハウスでフロント業務をすとか、そういった話しの中で、機屋さんはなかったのかと聞いたところ、それはなかったと。その部分っていうのは本当は必要だったのではないかなということを会話したこともございまして、そういうことを考えましたときに、学校現場でのものづくりに対する機運の醸成が一定あってもいいのではないかなというふうに思っております。ただそれを単に教育の括りで機屋に入って、管巻きをして縦を繋いで箆を入れてとか工程を理解するっていうのは簡単だと思うんですが、そうではなく、それには将来このものづくりっていうのは非常に楽しいなって思わせる部分について、今回の資料にございますものづくりワークショップっていう位置付け、これもまだこれからどのように展開していくかというのは、まだきっちりとセットアップはしておりませんが、民間の方々がこの地域で何か産業と産業を掛け合わせる方法っていうことがあるよねとか、女性の皆さんが和服の関係にしてもいろんなグループができたり、その後ろに子どもたちが一生懸命ついてきて、将来楽しいなって思わせるような空気感をつくるとか、そもそも高いハードルから事に入っていくのではなく、もう少し目線を下げたことから産業に入っていくような、そういった要因だったら、私たち商工観光課側としては、遊び心をもって事を進めていく方向もあるのかなあというようなことで、教育、人づくりという部分についても、何かしら楽しくやっていくような環境が整えられるのかなあというようなことを最近常を感じているところです。

(山添町長)

最近、織りなす人という地域の地場産業の担い手の人たちに焦点をあてた動画を、毎週金曜日に配信しているんですけども、これが、各紙の新聞等で発信されたことによって、丹後教育局の局長からも、お出会いしたときに見たよとおっしゃっていただき、非常に面白く拝見させていただいて、例えば町の産業の現状を子どもたちに知ってもらおうという観点の中で、ふるさと教育の中で教えてもいいと思っているみたいなことをおっしゃったので、そういう活用の仕方っていうのは、事例として可能性があるのではないかなと感

じています。ただこれを実際、教育現場にどういうふうに活かせるかっていう議論はまだしていませんし、今後も展開の中で見定めていく必要があるかと思えます。

(松本商工観光課主任)

与謝野ブランド戦略を担当しています商工観光課の松本と申します。よろしくお願いたします。

ただ今、質問の中で、町の産業をどのように発展させていくのか、対象は町内の人でいくのかというお話があったと思うんですけども、基本ベースになるのは、町長の考え、また、クリエイティブディレクターの田子學さんとお話しの中で、今考えてますのは、町の人たちが本来持つ力というのは、素晴らしいものがあるはずだと信じていますので、その能力をいかに引き出すことができるかと、そのためには、外との掛け合わせであるとか、異業種と申しますか色々な様々な分野との掛け合わせっていうのは必要だと思うんですけども、あくまで課長も申し上げておりますけれども、内発をいかに育てていけるかということです。それは、既存の事業者もですし、もしかしたら引退されたあるいは一線を退かれたかもわからないけれども技術を持った方、そういった皆さまの能力を合わせることによって、言葉として我々が伝えていっているのは、住民の皆さまのクリエイティブな部分、本来皆さんが人間として営みを、人は皆クリエイティブを持っているということ、例えば絵を書いたりデザイナーだけがクリエイターなわけではなく、皆さんそういった能力を持っておられるので、そこをいかに引き出す仕掛けができるかということと、与謝野ブランド戦略の中では、考えていきたいと思っております、そういったときに、一事業者を対象にそういったことをしていくと、商工分野の話が非常に多いと思うんですけども、そうではなくって、やはりそれを次世代に繋いでいくためには、どこに目線をもっていく必要があるのかっていう話しをしていくと、やはり子どもではないかというような話しの中で、そういった子どもっていった場合はやはり学校教育、社会教育っていうのが非常に重要であろうと、これは産業振興会議の論点ということではなくして、与謝野ブランド戦略を中心として考えているクリエイティブディレクターまた行政のコアがメンバーでの意識共有の中で子どもの方へ目線が向いているということです。振興会議はそれをベースにしながら、与謝野ブランド戦略という産業振興を基軸にした町づくりの戦略を考えていくという場ではありますが、ベースにはやはり次世代に繋いでいくためには、教育というのは非常に重要なことであるということで議論をしているということで、住民の皆さんの持つておられる能力を引き出す仕掛けを産業振興という視点の中からできないかということで考えているということと、7月1日に岡田委員長さん、教育長とクリエイティブディレクターの田子さんと意見交換をしていただく場がございましたので、その中でいいお話だったと思いましたが、教育長がおっしゃっていましたが、大人が子どもに夢を語っているのかっていうこと、事業者である親そして次世代を担う子どもたちの今持っている新しいチャレンジができる気持ちを親子で育てていく仕掛けができるんじゃないだろうかっていうような話しもできていましたので、子どもたちに見せる親の背中

ってというのが非常に重要なのかなあっていうような話しもありましたので、まち、ひと、しごとの議論でもありましたし、そういったどこの分野でもそういう論調が町内各所で巻き起こっているというような現状ということで報告とさせていただきます。

(今西委員)

今お話しがあった、ものづくりの考え方っていうのを大綱の中に一つにいかがでしょうか。この地域の特色として受け入れられるかと思います。ものづくりは何百年もこの地域で続けられてきたことなので、説得力もあるし、どの世代の方が聞かれても納得できる話しではないかと思います。それだけではないですが、一つとして。

(松本商工観光課主任)

もう一点だけすみません。言い忘れていたことがございまして、子どもたちを育てる環境として素晴らしい環境であるということがありまして、五感を育むには素晴らしい地域であるということを住民の皆さん自身が私たちも含めてまだまだ理解ができていないところで、そういった暮らし全体がすごく豊かな地域なんだっていうことをベースに産業振興っていうことを考えていくべきじゃないかということが本町にはあるということを補足的に説明させていただきます。その中にもものづくりがあるというような視点は今持ちつつあるという現状でございます。

(塩見教育長)

松本さんがおっしゃった場に私や委員長が同席させていただいて、一つ思ったのが、この豊かな与謝野町に住んでいるからわかっていないという、で、田子さんは横浜におられて、この与謝野町の食べ物がおいしい、それから水も、それから風景も、そこはどっぷり浸かっているから私たちは見えていなかったというのが、私の考えを述べたもので、そこにヒントがございまして、私はできる限り学校教育の中でいろんな体験をさせていく中で、例えば18歳になって都会に出ていっても、そこで我が故郷与謝野町を見れる子になれば、小谷係長がおっしゃったように帰ってくる可能性もあるということを私は思いましたので、ですから小学生では総合的な学習時間なんかで地域の勉強をしておりますし、中学生の場合は、ちょっとものづくりというよりも正しい職業観を育てるために自分の興味のある職業を体験しに行っているということで少しねらいがね、ただもう少しものづくりということ考えていくなれば、考え方を変えて例えば染色センターへ行ってみたりだとか、そういうのがあるんだろうと感じております。ですから今やっていることを何をベースにやっていくかということはいえるんだろうと。そして町民いわゆる大人が生き活きとする町になれば、多分子どもに夢を語るだろうと。そうでないと将来こちらに帰ってきてということになりにくいのかなと、長期的展望にたって私はそのように思ったものですから、田子さんとの会話の中で意見を述べたんだと思っております。

(岡田教育委員長)

私も創生会議に出席させていただいて、結果として「意見の整理」1、2のように、教育になったんですけど、それまでにはいろんな意見が出て、今、観光課の方もおっしゃったように機屋さんの委員の方が、親がこんな仕事を継いでもどうしようもないから、お前らはこの仕事を継がずに何か自分らでせいよっていう教育で僕らは育ちましたって言われたんですよね。だから機屋が景気のいい時代でなくなったちょうど40代くらいの方だから、景気がよくないからこんな仕事は継がなくていいよって僕らは育ったってそれって何なんだろうねって、それが楽しいから継いでくれというのが普通と違うんだろうか、でも、僕たちは親からそういわれてきたということで、いろんな意見が出た中で、今、教育長がおっしゃったように親がこの仕事は楽しいよっていうような、楽しいからしてくれっていうような教育、この町から出ていっても帰ってくるような、与謝野町の素晴らしいところを子どもたちに教えていってはどうか。田子さんが食べ物おいしい、空気もいいといわれても、与謝野町の人それが当たり前だから多分気がつかれていないのではないですかといわれたことも含めて、教育が大事だとなって、この意見の整理1、2になったような記憶なんです。いろんな本当にいろんな意見が出て、結局人口ビジョンの議論ですから、人を増やさんなんいうときに、外から来てもらうより、出ていった子どもに帰ってきてもらうのが一番だろうということになりました。与謝野町はいいところだということのときからの教育だろうということに、2班とも意見の整理ができたという経過があるので、地方創生も産業も結局は教育から町を救っていくんだらうなっていう感覚なので、今日の会議の説明になったのではないかと思います。

(山添町長)

委員長がおっしゃった親から織物業を継がなくていいよっておっしゃったっていうエピソードがありました、僕たちの世代もそうなんですよね。今、親の世代は60歳から70歳代くらいで、織物のいいときからそして衰退期と本当に甘いも酸いもわかっている世代なんですけれども、僕は両親からそういうことは一度もいわれたことはなかったんですけども、同級生に話しを聞いてみるとすごくそういったケースが多かったんです。つまり自分たちの家業を継がなくていいから自分たちで人生を切り開いていくために頑張れよという声をかけてもらったと、これは一見いわれて楽になる部分も僕らの世代としてはあったんだと思うんですよね。ただ一方で、よく考えてみて友人たちともよく議論をしたんですけども、それって親の世代から僕たち信頼されていないだけなんじゃないかっていう話しもあったんですよね。つまりこういう悪くなる産業に例え身を置いたとしても、自分たちの息子や娘だったら、何とか立ち直るための努力をしてくれるんじゃないかっていう信頼感を、そのとき僕たちは得ることができなかったんじゃないかっていう話しをすることがあって、もしそうだとしたらすごい悲しい話しなんですけれども、ただ多分自分たちがいわれてきた世代で思っていたのは、少なくとも自分たちだったら何かできるんじゃないかっていう信頼感を自分たちには伝えてほしかったなっていう話しをしていたんで

すね。先ほどの委員長のエピソードの中で多分僕たちが感じていたこととしては、親から子に対してその自分の子どもたちを信じるっていうこと、そういう力が若干抜けていたとか、観点としては薄まっていたんじゃないかなって思いましたので、そういうふうにいわれてきた世代として補足をさせていただきたいと思います。

(今西委員)

皆さんの多くが、地元で生まれ育った方だと思うのですが。私はよそ者です。大人になってから嫁いできた人間なんですけど、やっぱりこの町は、独特の雰囲気っていうのをすごく感じます。織りなす人の動画も見せてもらいましたが、とても素敵でした。普通海辺の人口2、3万人の町っていったら農業、漁業、林業が中心のところかなって私は想像していたんですけども、来たら全然雰囲気が違うなって思いました。何が違うのかってやっぱりそれは丹後ちりめんっていう産業、ものを作っている産業があるという雰囲気が醸し出している空気だったんですよね。でも地元の方はそれがどうしたのってみたいない感じで、あまり気付いていない。子ども達も、自分が生まれ育ってそれが当たり前だと思ってるから何とも思わない。でも今の子どもって情報はたくさん入っているので、どんな遠いところであっても誰がどんな情報を発信しているのか映像で見てるので、そういう意味で私の子どもの頃から比べて、すごくハイセンスになってますね。なので織りなす人のように見せ方を工夫されて町が取り組まれているのを子どもたちが見て、かっこいいなっていうふうに思ってもらえるようなことをどんどんやってほしいなって思っています。

(岡田教育委員長)

人づくりの関係の教育特区になったら、与謝野町のいいところを子どものうちから教育で教えていきましょうっていう結論に達したような感じでした。子どものときから与謝野町のいいところをふんだんに授業等に取り入れて、与謝野町を出ても、10年後20年後でもやっぱり与謝野町に帰ってきたいと思わせるだけの少年少女時代を過ごさせるには教育しかないだろうという結論に達したということで、いみじくも1班も2班も別れて全然違う場所で話し合ったのに、結局は二つとも「教育」でこの町を創生するとの議論でした。

(塩見教育長)

体験する中で、一人でもその素晴らしさを体験できた子どもがおれば、今のようなことになる。10人体験したら10人ともって、これは少し欲張りな感じがしますけど。

また、先ほど町長がおっしゃっていましたが、町長のお父さんたちはたいがい私たちの世代だと思いますが、お父さんのお若い頃は、多分親たちは継げって行ってましたよ。調子のよいこともあって、多分家ではそういった元気のある話しがあって、だけど私たち世代になるとしんどいときを経験していて、それをそのことを子どもたちにどう伝えているかということは課題としてあるだろうというふうに思っています。少しここで面白い話しを一つさせてください。ALT が交代しましてアメリカに帰りました。背中に着物着付け

教室の師範の看板を背負ってね。これは外から見た場合の与謝野町なんです。与謝野町の人間がそこまでやってないんですよ。びっくりです。懇親会しましたらやはりニューヨークで着物の着付け教室をしたいといいました。背中に看板背負って飛行機です。住民は案外与謝野町の中で与謝野町の良さを知らない。アメリカから来た彼らは素晴らしいと感じる、よそから見たときがというのをちょっと思い知らされた出来事なんですね。ですからやっぱり本物を見させる、そのときに一人でも二人でもそういうことを感じてくれるといいと思います。技術の高さを案外知らないのが住民なのかもわからないということも学んだ出来事です。

(酒井委員)

ただ今二課からご説明いただいたことも皆さんがおっしゃられたこともよくわかったんですけども、話しの中で教育しかない、教育で何とかするしかないものすごく重いものを子どもたちに背負わせているような話の流れになっているような気がして、ちょっと危機感っていうものを感じまして申し上げました。

(山添町長)

そのご指摘はもっともだと思います。多分今話しをしていることは、自ら人生を選択するっていう前提においてでの話しをしているって思うんですけども、今、地方創生の議論を例えば他の自治体の議員だったりと談笑して出てくるのは、例えば宮津市の議員と話しをしていると、俺は宮津市で育った人たちは宮津市に戻ってこいと強硬的にいいたいっていうんですよね。多分これってすごく本末転倒で、多分それは日本国を愛せって強要することと同じじゃないですか。だけどそれはもっと自発的な心でもって育ってくるっていうのが理想形で、そこに向けてどういったことができるのかっていうことを考えるっていうことが前提だと思うんですよね。スタンスとしては、その一線は守っていくべきだと個人的には思っていますので、その点気を付けながら私自身も進めていきたいと思えます。当然こちらに帰ってきて、人生を過ごすっていう選択肢もあるし、世界を舞台に僕たちが知らない町でどこかで幸せに生きるっていうことも当然人生として肯定すべきことだし、それはそれぞれの対応性を尊重していくっていうことは、大前提に置いたうえで議論だということは、ここで確認をさせていただきたいと思います。

(樋口委員)

いいお話しをいっぱい聞かせていただいて、私は今西委員と一緒に、よそから嫁いできたというよりも、縁もゆかりも親戚もない友達も一人もない状態で与謝野町にやってきました。お陰様で地域の皆さまにどんどんと助けていただいて、いろんなお声をかけていただいて、二課の皆さんが来られる前にちょっとお話しさせていただいていたんですが、与謝野町がどういった棘を出すかという話しをさせていただいていました。私はある意味、その地元愛、与謝野町に対する地元愛っていうのは、結構持っていると思ってお

ります。できることなら、多くの人にここ与謝野町に来ていただきたい。そんなこと不可能かも知れませんが、一人でも多くの私の同士というか、えー与謝野町にこんなええところがあったんっていうところを発信できるチャンスが僕たちにはあるのではないかという話しをさせていただいて、それが教育ということで、与謝野町に行けばいい教育が受けられる、どういった教育がいい教育とは一概にはいえませんが、そういったことも僕らの力でできるのではないかなんてことも先ほど町長にもお伝えさせていただきました。ここで一つ質問なんです、与謝野ブランドの展開とか地域の若い人たちが着目している人が増えてきたというのは、やはり地元の仕事に就かれた方が増えるんですね。

(小室商工観光課長)

先ほど冒頭で申し上げましたように、産業振興会議っていう会議体が行政の設えになっているんですが、その動きでいよいよ6年を迎えるような会議体になるんですけども、それには、いろんな様々な事業者が関係されていまして。もう一つは、最近の丹後全体でいえば、JCだとか、与謝野町では、商工会青年部っていう位置付けがございます。今それぞれのいろいろなセクションでいろんなことを勉強してこられた経過があります。今回非常に興味を持っておられるというのは、あくまでも事業者です。しかも若い社長さんの卵とか。

(樋口委員)

それは、跡取りさんが多いのか、自発的に新しくアクション化して商売をしようかっていう方が多いのかっていいますと。

(小室商工観光課長)

特に跡継ぎさんになっております。最近の動きとして、産業構造を考えましたときに、こと建設業を考えますともうおそらく壊滅状態になってくるんじゃないかなあと思います。昨日も町長と会話していたんですが、与謝野町の玄関口になるべく石田の入口、地所は宮津市になりますが、そこの大きな土地がパチンコ店になるわけですね。そう考えたときに、当然一瞬の建設業へのいろんなチャンスというのはあったとしても、これが本質かというところじゃないのではないかなあとということで、その質感を建設業者の方でも若い事業者の方は、気付いておられるんですね。ただ何をしたらいいかわからないっていう言葉がよくある中で、今晚そういった方々と会話をさせていただくチャンスもあるので、私どもも町長が持っている考え方っていうのをきっちり別の視点で、セッティングしていくようなチャンスもいただいているのではないかなと。町の若い方々っていうのは、本当にラストチャンスというふうな感覚をよく耳にするわけなんです。そういう点において、行政の方がお手伝いできる部分っていうのは、いろんな方法があるんじゃないかなと。単なる企業をそのまま伸ばすっていうことじゃなくて、企業と企業の仕組み、座繰りを変えていくことはありうる話しですので、そういったこともきっちり説明するときに来た

のではないかなとは思いますが。

(樋口委員)

そのお話しの中で本当にもうパーセンテージからするとかなり少ないペースになるのかもしれませんが、またどこかで間口というか他地区から多方面のいろんな業種であり、他地域からも与謝野町にこられるチャンスはあるんだという間口は広げていただきたいな、なかなかここを目指して人が来るってということにはなりにくいとは思いますが、いろんな形でそういった間口を広げていくってことは大切でしょうし、私たちは何とか教育の方で頑張っていきたいと思えますし、そういった人を繋げていけたらなあと思えます。

(小室商工観光課長)

一点だけなんですけど、最近よく我われで言葉を出しますのは、風と土っていう表現をよく使うんですけども、その外の風が入ってくるっていうのは必ず必要なんじゃないかなあということで、これが大きな企業なのか、また小さなクリエイター的な役割の方なのか、それはいろいろあると思うんですけど、ただやはり関係する先生方との会話の中で出てきているのは、必ず皆が納得するのは、地域の内発的な力、これが絶対に必要になってくる、そのためには、外からの風が必要になってくるということで、そのその割合については、これから考えていかななくてはいけないんじゃないか、大勢の方がどんどんどんどん企業進出してきてハレーションを起こすケースはたくさんありますので、そのさじ加減っていうのは、やはりバランスコントロールっていうのはしていかななくてはいけないのではないかと最近思っています。

(山添町長)

それでは、よろしいですか。

(意見、質問等なし)

(山添町長)

それでは、商工観光課、企画財政課の皆さん、ありがとうございました。

(商工観光課、企画財政課職員退席)

(浪江総務課長)

それでは、今日のまとめをよろしくお願いします。

(山添町長)

他に確認しておきたい事項ですとか、何かございませんか。

(岡田教育委員長)

高校は、この大綱には入らないですか。

(酒井委員)

社会教育の方で入るのではないですか。青少年育成関係で。

(岡田教育委員長)

与謝野町には、加悦谷高校もありますけど。

(酒井委員)

学校教育には入らないですよ。

(塩見教育長)

私たちは、学校教育で義務教育を担当するんですけれども、かといって社会教育でもないですよ。ですけども地元にある高校生ですので、やっぱり活用しないわけにはいかないというふうに思いますけれども。やっぱり高校生も視野に入れていく必要があるだろうと、高等学校を卒業して出ていくとか残るとかいう点では、大いに関係すると思いますので、中高の連携で、例えば加悦中学校と加悦台高校、江陽中学校と加悦台高校という連携の中で、いろんな取組みをしますので、それは行けるとは思います。が、範疇としては社会教育ではないかもわかりませんが、地元にある学校ですので、高校生も視野に入れて、ご協力いただくという形がいいんじゃないかな。

(山添町長)

学校教育、社会教育だけでなく、就学前の教育についても当然接続をして行かなくてはならないので、これを一貫して考え方を整理していくことの方が子どもたちにとっても、そして社会にとってもいいんじゃないかなと思いますので、管轄とかそういうことを越えて、議論をしていく必要だと思います。

それでは、本日のこれまでの流れの整理なんですけれども、教育委員会事務局の方からこれまでの経過を踏まえてたたき台として一つの議論の材料として整理をしていただいた資料を基に議論をさせていただきましたし、その後、私の方で私の考え方の方向性、特に産業振興と教育においては、非常に密接な関係性が出てきたんじゃないかということと、そしてそもそも教育というものは、子どもたちがこれからの社会を生きていくうえで、より豊かに生きていくうえで、必要な力を授けていくものなんじゃないかということ話をさせていただきましたし、その後、現在の教育委員会以外の管轄する部署として議論がされている中で、教育というエッセンスが非常に重要になってきたという中で、報告いただいて議論をさせていただきました。この目的といいますのは、それぞれの立場の中から一つ

の題材を提供していくことによって、委員の皆さまにも重要と思われる観点、そしてエッセンス、考え方そうしたものを出示していただきたいという思いがあって、こうした設えをさせていただきました。これからどのように大綱を策定をしていくかはあろうとも、今日皆さんに出示していただいた観点を含めながら、私の方である一定程度方向性を求めていきたいなというように思っています。その中では、当然中間的にこうしたまとめはどうかという中で皆さんの意見をいただきながら、進行させていただきたいと思っておりますけれども、今日いただきましたキーワードは本当に多くのものがあつたと思います。例えば、今西さんからは多様性であったりものづくり、そして岡田委員長からは遊びは心栄養源という中で体験であったり、五感、直感、感性そうしたものを重要視する教育っていうのがいいんじゃないか、そして樋口さんからは棘を出していく必要があるということ、そして酒井委員からはそもそも教育を議論していく過程において、子どもたちに非常に多くの負荷をかけていってるんじゃないかというご指摘の中から自由な選択を前提とした教育の在り方を指向すべきなんじゃないかという主旨の発言をいただきましたし、本当に様々なキーワードを出示していただきましたので、それを基に私の方で考え方も含めてできる限りですが、大雑把な括りとして資料を作っていくたいなと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まだまだ議論すべき点もこれからもたくさんありますので、何かございましたらいつでも連絡いただきたいなと思ひます。

(小池教育次長)

それこそ活発なご意見をいただきありがとうございますけれども、そもそもの教育大綱はこうだというのは全くなくて、いろんなものがあつて、資料にもお示ししているとおりです。これから一定町長の方で方向性を示していきたいということなんですが、町長がおっしゃっている中で、田子さんの話しがありましたけれども、例えば大きな基本方針を掲げ的过程中で、例えば一つに学校再編ですとか、そうした部分の入れる教育大綱もあり、実際、懇談会あたりでも町長が総合教育会議の中でもそういった議論を深めていきたいと思ひているんですっていうような答弁もされていますので、これ相反する部分があつて、細かい部分、学校再編あたり必要なくらいだったらいいんですが、今求められているのは、教育委員会基本方針の見直しという部分に入ってきているという中で、どこまでこの教育大綱に踏み込んだらいいのか、そうなってくると細かい部分になってくるというかそのあたりが少し気になるなと思ひます。

(山添町長)

次長がおっしゃったことというのは、どういう枠組みで教育大綱を作っていくかということに強く関連してくることだと思ひますし、そうした中で、大きな方向性だけを大綱で示すっていうやり方もあり、そしてもう少し細かいところに入るやり方もあると思ひますけれども、どうでしょう、このあたりのご意見はありませんか。

(岡田教育委員長)

私の意見としては、あまり細かくではなく大きな枠組みで町長がこういうふうにしたらいは私たちの意見もこういうふうに入れていきたいというほうが私はいいいのかなと思っています。細かいことはその事例によってまた部署部署で方向性を決めていった方がいいと思いますし、大勢としては大まかな大きな枠組みの方がわかりやすく、町民の方にも読んでいただきやすいかなと思います。あまり分厚いと目を通していただきにくいかなっていう感じもするので、ある程度大枠でいいような感じがしているんですけど。

(今西委員)

私も一緒です。

(樋口委員)

いろいろなパターンがあるということで資料をお付けいただいたんだなって思っていますが、シンプルな方がわかりやすいなと思うんですけども、一つ熊取町の教育大綱が示しているのが、こういう考えに基づいてではこうしますっていう表現の仕方では何をしますっていう表現ではなく、これに対してこういう考えをもっています、そして実際はこうしてみますとか何か好感が持てる大綱だなあと思ったんでこれも方法としてありかなあと、一般の方に見ていただくとしては、わかりやすいかなあと思いました。

(酒井委員)

樋口委員がおっしゃったことと同じことを私も思っておりまして、例えば先ほどありましたけれども、明日の人材をこういう人材を与謝野町では育てますっていうことには、そのためにはこういった項目がある、でそれをさらに細かくしていく中に、例えばコミュニケーション能力を身に付けるためにというそういった項目があって、さらにその中に方法として学校を適正規模にすることによってそういう中で子どもたちを育てることによってコミュニケーション能力を育むとといった、こういう目的のためにこういう施策という具合にして、細かく書くのであればある程度わかりやすくはできるかなあとと思います。どこまで細かい項目にしていくかっていうのは、実際に作っていく中で、そんな細かいのは計画の中で示すべきものかなと、ここくらいまでは大綱に示しておかないとってというような議論をしていけばいいのかなと思います。

(山添町長)

皆さんのおっしゃるとおりですね。そしてさらに申し上げるのであれば、なぜ明日の人材をという人物像を追い求めていくのかという社会的背景などもきっちり記述させるべきだと思うんですね。こういう社会的背景があって、こういう時代に私たちは生きているからこそこういう明日未来に羽ばたいていくような人材を育てていくと、その中でどういような教育の在り方があって、そして施策があるんだという一連の相関的なものはき

ちりとまとめていくべきだし、私がこうした形で総合教育会議に入っている役割りの大きなものとしては、その前段の時代背景というか推移というかそういったものを捉えたうえで、教育の在り方を適正化していくってということにあると思うので、ここは私の未来への見方であったり、現実の見方、そういうところに力が求められているんじゃないかなどこのように思っておりますので、そうした感覚的にこういう人たちを育てますっていうだけじゃなくて、もう少し厚みをもったというかちゃんとその目標がなぜ必要なのかっていうことがわかるようにはしていきたいなと思います。まず大きな枠組みを決めたうえで、どこまで細かくしていくのかっていうことは、議論を深めていく段階において、定めていくことにしましょうか。

(塩見教育長)

町長がおっしゃったように現状認識が必要だろうと思います。それからどこまで細かいあんまり細かいところまでいくとこれもどうかと思うので、そのあたりもこれから考えていったらいいと思います。

(岡田教育委員長)

一つお聞きしたいのは、作文を書いていただくよう町長がお願いされましたが、あれは私たちも読ませていただけるのでしょうか。町長がご覧になるだけですか。

(塩見教育長)

9月4日を〆切にしているんです。

(酒井委員)

全部で何人くらいですか。

(小牧総務課主幹)

橋立中学校を含め約400名です。

(岡田教育委員長)

原稿用紙は何枚ですか。

(小牧総務課主幹)

2枚ずつで800字くらいにまとめていただくということでお渡ししています。

(塩見教育長)

ご希望があればいいと思います。子どもの声を聞いていただくのはいいと思います。

(酒井委員)

ぜひ読ませていただきたい。

(塩見教育長)

いいんじゃないですか。またお渡しします。

子ども自身の声を聞いてみてください。

(山添町長)

前回の会議でも話題になりましたけど、それを知るっていうことも大切だということだと思いますので、皆さんにはぜひご覧をいただきたいと思います。

(塩見教育長)

子どもの実態を知っていただくいうことはいいですね。

(酒井委員)

一応次回は案を出していただくっていう流れなんですかね。

(山添町長)

粗々のたたき台みたいなものを本当にたたき台ベースですが僕の方で、人材像とか教育の在り方とかそういうものをまとめたものをその議論の題材にさせていただくという形でやりましょうか。

(浪江総務課長)

日程的には9月が難しければ10月にずれ込むかもわかりませんが。

(塩見教育長)

9月の終わりか10月に入ってからということにいたしましょうか。

(小牧総務課主幹)

すみません。先ほど申し上げた作文を依頼した人数ですが、小学校の5年生は217人、中学校の2年生は橋中を入れて225人合わせて442人となっております。

(浪江総務課長)

よろしいですか。それではありがとうございます。3時間強になります長時間にわたって熱心にご議論いただきました。ありがとうございます。また急遽の資料のご提供なり会議への持ち込みということで大変申し訳なく思っております。今後できるふだけそういったことのないよう心がけていきたいと思っております。それでは今お認めいただ

きましたように9月末か10月にずれ込むかもわかりませんが、何らかの形のものをもって次回の議論をしていただくことにいたしまして、今日の会議は閉じさせていただきます。本日は長時間にわたりましてありがとうございました。